



安全・安心をお届けします。

令和4年3月10日

## グリーンプロジェクト情報 第2号

きらきらEYEランド  
JA庄内みどり

発行：庄内みどり農業協同組合  
協力：酒田農業技術普及課

### 春作業に向けて万全の準備を！ 基本技術を確認し、計画的な作業を！

令和4年産米の春作業スタートまであとわずかとなりました。まだ雪が残る圃場もありますが、今後の気象経過に十分留意し、焦らず作業ができるように計画を立てましょう。また、手順や使用する機器・容器を事前にしっかり確認し、重要なポイントを押さえて健苗づくりに努めましょう。

#### 技、其の一 春作業の目安

◎春作業の目安※下表を参考に、田植え時期から逆算し作業計画を立てましょう。

月日	3月 26～	4月 6～	9～17	18～26	5月 7～15
作業	浸種	催芽	播種	マルチ除去 緑化期 硬化期 温度管理・水管理	田植え

#### 技、其の二 種子消毒は確実にいきましょう！

薬剤消毒法	使用薬剤	濃度	処理法
低濃度長時間 処理法	(推奨) テクリートCフロアブル ※苗立枯細菌病にも有効	200倍 (50cc/10ℓ)	24時間浸漬、その後浸種。
湿粉衣法	ベンレートT水和剤 20	乾燥籾重の 0.5%	種子粉衣後、2～3日間ひろげて 陰干しする。その後、浸種する。

#### 注意事項

- ①種子消毒時の水温は、10～15℃未満であることを確認する。(技、其の三②を参考)
  - ②浸漬処理の場合、希釈した薬液は乾燥籾重の約2倍の容量を準備する。
  - ③浸漬する場合は、催芽袋をよく揺すり中までしっかり薬液に浸かるようにする。
  - ④使用後の廃液は、周辺環境に影響を及ぼさないよう適切に処理する。
- ※ばか苗対策の詳細については、GP情報第1号(2月10日発行)をご参照ください。

#### 技、其の三 浸種初日の水温と積算温度が重要！！

品種名	積算温度(目安)	浸種日数(目安)
はえぬき・ひとめぼれ・つや姫 雪若丸・ふくひびき	120℃	水温10℃で 12日間

- ①浸種は水温10～15℃未満を確保できるように3/26頃から開始しましょう。
- ②浸種開始初日の低水温は発芽率が低下します。  
(お湯を加えるなどし、水温10～15℃未満を確保してから行う)
- ③浸種桶には、必ず温度計を設置する。適水温で浸種し、確実に積算温度を確保する。
- ④浸種時の水量は、種子量に対し薬剤消毒で2倍、温湯消毒で3倍以上とする。
- ⑤薬剤消毒種子の場合、薬剤効果安定の為、浸け始めから3日間は水を替えない。  
その後は、2～3日おきに水の交換を行う。
- ⑥温湯消毒した種籾は、必ず別の容器で区別し、2～3日おきに水交換する。
- ⑦水交換の時には、種籾の位置・上下交換も行う。

※浸種時に活水(100倍液)を使用すると発芽が促進されます。使用時期は浸種始めから4日目以降が目安です。(発芽阻害物質溶出後に使用すると効果が高いため)

また、催芽時にも活水(100倍液)を使用すると効果的です。

※千粒重が大きい「雪若丸」「ふくひびき」は、浸種時に活水を使用し、積算温度で120℃を確保する。

#### 技、其の四 正確な温度でハト胸催芽を！



☆上手な催芽は健苗づくりの基本☆

- ①催芽温度は30～32℃とし、催芽の程度はハト胸状態とする。
- ②品種や浸種状況によって、催芽完了までに要する時間が異なるので、随時、芽の状態を確認(袋の中まで)し、90%以上の揃った芽切れで仕上げるようにする。
- ③ハトムネ催芽機を使用の場合も、機械を過信せず温度計を設置し適宜温度を確認する。

#### 技、其の五 育苗培土・育苗マットの使用は適切に！

##### ①購入培土を使用する場合

透水性・通気性が高すぎる場合は、下表の資材を混合するなどして保水性・保肥力を改善する。混合後は必ずpHを測定してから使用する。pHの測定は最寄りの営農課にご依頼下さい。

##### 【推奨資材】

資材名	容量	pH(目安)	参考価格(税込)	1㎡当たり価格
ピートモス(カナダ)	107ℓ	4.5	3,597円	33.6円
水稻育苗用V床土	45ℓ	5.0	2,156円	47.9円

(裏面に続く)

## ②育苗マットを使用する場合

1. マットには裏表があるので、育苗箱に入れる時は必ず確認する。
2. 播種時（前）はマットにたっぷり灌水する。（箱当たり約2ℓが目安）  
※「水切れ」や「水不足による高温障害」に注意して下さい。
3. 覆土（覆土用、肥料入等）は、粗い粒状のものを使用し、1.2～1.4 kg程度（覆土をかけすぎない）を目安に均一にして、出芽不良を防止する。
4. 過湿・低温にならないように育苗期間中の灌水はひかえめにする。  
（育苗箱を傾けて水がしみ出るときには、灌水しない）
5. カビ・根張り対策として、播種後14日以内にダコレート水和剤500倍液を箱当たり500cc灌注する。（特別栽培米には使用出来ません）

## ③水田の土を使用する場合

表土を削り、作土層を床土として使用する。（深すぎて、耕盤まで掘り取らないように要注意）過度に乾燥させてしまうと、砕土のとき土が細くなりすぎ、酸素欠乏など障害を引き起こすことがあるので、乾燥程度には十分留意する。また、使用前にpH（4.8～5.2）を必ず確認する。

## 技、其の六 肥料・農薬混和は播種7日前を目安に！

### ① 育苗基肥（1箱床土量 約3.3kg）

施肥例①	サイコー11号：現物12g/箱	追肥は2回程度必要
施肥例②	サイコー11号：現物8g/箱 + エコロング413M100：現物50g/箱	追肥は不要
施肥例③	稚苗用ロング313：現物60g/箱 （育苗一発稚苗用）	追肥は不要
施肥例④	こめパワーマット・エースマット （育苗専用マット）※肥料塗布済み	追肥は2回程度必要

### ② 床土消毒（苗立枯病の予防・ムレ苗予防）

床土に水田の土を使用する場合は、上記の肥料を混合し以下の薬剤を同時混和する。  
タチガレン粉剤（4～6g/箱）またはタチガレエースM粉剤（6～8g/箱）  
◆注意事項◆ 特別栽培米は、決められた薬剤しか使用できないため、必ず確認してから使用して下さい。※不明な場合は営農指導員へご相談ください。

## 技、其の七 適正な播種量で健康な苗作り！

☆播種量の基準

	移植葉齢	育苗日数	乾籾重	催芽籾重	催芽籾量
稚苗	2.2～2.5	22～25	150～170g	180～200g	1.6～1.8合
中苗	3.2～3.5	30～35	100～130g	120～160g	1.1～1.4合

「雪若丸」は千粒重が大きいいため、他品種より播種量を1割程度多くしましょう。事前に播種量を確認してから播種作業を行ってください。

## 技、其の八 置床の準備

- ① ハウス内・トンネルの置床は整地を行い、できるだけ均平にする。排水が悪い場合は、周辺に排水溝を掘る。  
（箱の下に薄い板、塩ビパイプ等を敷いて対応する。）
- ② 昨年「ばか苗病」が発生した場合は、マルチや有孔ポリは再利用せず新調する。
- ③ 育苗施設周辺では「生わら」「籾殻」は使用しない。
- ④ ケラの予防対策として、育苗置き床に使用できる登録農薬はありません。波板などの設置による侵入防止策、有孔ポリを敷くなどの対策を行う。

## 特別栽培米に取り組む皆様へ

早い地区で温湯消毒作業が始まりました。その後の作業・管理について下記の注意事項を厳守して下さい。（ばか苗病等の発生予防対策としても重要な事項です）

- ① 温湯消毒をした種子と、テクリードCフロアブル等による薬剤消毒をした種子とは、完全に区別し、別々の容器で浸種して下さい。（催芽も同様に対応して下さい）
- ② 温湯消毒後の種子は引き取り後、直ちに浸種して下さい。  
すぐに浸種できない場合は、再感染抑制のため、冷却後脱水し、通風乾燥で籾水分15%まで低下させましょう。その後、風通しのよい冷暗所で保管して下さい。
- ③ 育苗箱に明確な目印などをつけて、区別して播種作業を行って下さい。
- ④ 育苗期の殺菌剤等については、地域の栽培基準で定められておりますので、指定された農薬以外は使用しないよう注意して下さい。



健康な栽培密度 70 株/坪で！

- 活着（発根）しやすい葉齢は稚苗で2.2～2.5葉です。老化苗の移植を防止しましょう。
- 早めの有効茎数確保が重要です。  
70株/坪、4～5（本/株）植えを徹底し、初期の分けつを促しましょう！
- 土壌pHの低下が確認されています。土壌改良資材を積極的に投入しましょう。



適正な播種量で  
箱当たりの本数を確保！

- 「雪若丸」は、千粒重が大きいため播種の重量を多くしないと、播種粒数が少なくなります。乾籾で180g/箱を目安に播種作業を行いましょう。
- 出芽不良を防止するため、浸種の積算温度は120℃を確保しましょう。

異品種の混入（コンタミ）を防ぐために、浸種袋・育苗箱には  
分かりやすい目印を付けましょう！

★ 次号の発行は4月11日です！